



平成30年7月6日

防犯ウォーキングアプリ「歩いてミイマイ」の実証実験

香川大学と香川県警察は、地域での防犯に関する調査や取り組みを共同で実施してまいりました。昨年度から、香川県警察と協力して、防犯ウォーキングアプリ「歩いてミイマイ」の開発を行っております。

本アプリは、防犯ウォーキングを行いながら、地域安全マップ作りによる情報共有や危険察知能力、防犯意識の向上に基づいた犯罪抑止を目指すものです。

このたび、実証実験の一部を下記の要領で実施することになりました。報道各社におかれましては、健康増進を兼ねた防犯意識の向上ならびに地域の安全・安心なまちづくりの実現をはかるべく県民の皆様方への報道のご協力をお願いいたしたく存じます。

記

日時と場所 平成30年7月17日(火) 10:30~12:00

香川大学幸町北キャンパス 311 教室および幸町、番町周辺

(10:30 に 311 教室で集合し、アプリをインストール後、フィールドワーク)

協力学生 主題C「地域での防犯を考える」の受講学生 25 名

担当教員 大久保智生(教育学部)、米谷雄介(創造工学部)、八重樫理人(創造工学部)

内 容

現在開発している防犯ウォーキングアプリ「歩いてミイマイ」は、防犯ウォーキングを行いながら、地域安全マップ作りによる情報共有や危険察知能力、防犯意識の向上に基づいた犯罪抑止を目指すものです。

本アプリの利用にあたり、ユーザーは、まず犯罪発生メカニズムに関するレクチャーを受けます。その後、地域を歩き回り地域に潜む犯罪発生の危険性がある箇所情報を、事前のレクチャーで得た知識をもとに、本アプリの危険箇所記録機能(撮影機能+タグ機能+メモ機能)を用いて収集します。複数のユーザーが収集したひとつひとつの箇所情報は「旗」として、ひとつの地図上へとマッピングされ、防犯ボランティア・学生等による防犯活動の振り返りや地域安全マップとして活用することが可能です。

本アプリは従来の紙ベースでは実現できなかった即時共有性とゲーム性を兼ね備えています。即時共有性とは、記録データがユーザー間で即時共有されることです。離れて活動している仲間の様子をアプリの地図上にて確認することができ、離れていても連帯感をもって活動に励むことができます。ゲーム性とは文字通り楽しみながら防犯活動に取り組めることです。差し詰め陣取りゲームのような感覚で、どれだけ旗を立てられたか(危険性のある箇所を見つけられたか)を競争する感覚を生み出し、防犯活動に楽しさを与えます。

本実証実験の結果を活用し、今後は本アプリの機能をさらに充実したものへと成長させる予定です。これにより、地域の皆様の防犯活動への参加しやすい環境の整備と、潜在的な地域の防犯力を引き出すことで、市民参加型の安全安心なまちづくりの実現を目指します。今後は、防犯ボランティアを対象とした実証実験、ウォーキングを行っている地域住民を対象とした実証実験を行っていく予定です。

歩いてマイマイ動作画面

★ ユーザーは安全／危険と感じた箇所についての情報を地図上に登録／地図上から確認できます：



ログイン画面



安全／危険と感じた場所を撮影、タグ、メモ



ユーザーが記録した場所には旗が立つ。



旗をクリックすると記録内容を確認可能

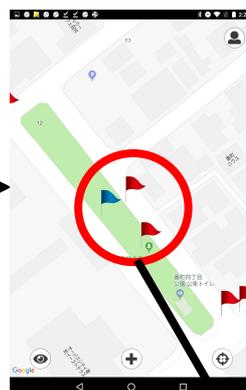
★ ユーザーは他者の記録を確認し、他者の感じ方、観点を知ることができます。自分との比較によるギャップからユーザーは自分に不足している観点に気づくことが可能となり、学習の生起が期待されます：



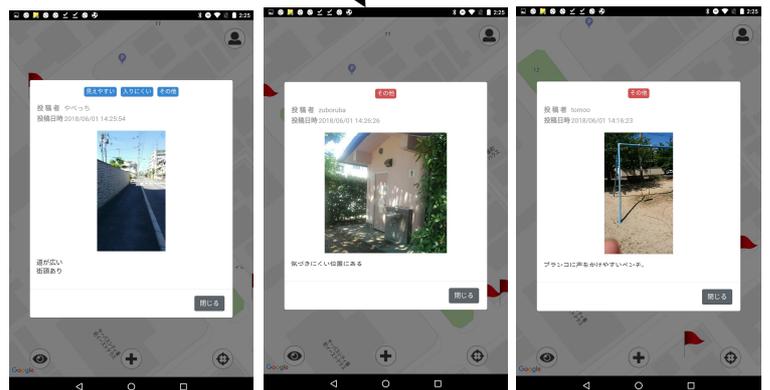
他者の記録箇所も確認可能、密集箇所は色を変えて黒色に可視化。



ユーザーが安全／危険と感じた場所を撮影、タグ付け、メモ



距離が近い場所でも安全（青）と危険（赤）で評価が異なる場所が存在



観点や感じ方が変われば安全とも危険とも判断できる。このギャップに気づくことがユーザーの危険察知能力、防犯意識の向上につながると予想している。

以上

➤ お問い合わせ先
香川大学 教育学部 准教授 大久保智生
TEL・FAX : 087-832-1530
E-mail : tomoo@ed.kagawa-u.ac.jp